

# 成器地区 地域づくり懇談会 議事録

- 1 日時 平成24年11月22日(木) 19:00~20:55
- 2 会場 成器地区公民館
- 3 出席者 地元出席者 15名  
市側出席者 18名  
竹内市長、羽場総務部長、松下企画推進部長、堀防災調整監、山根農林水産部長、星見都市整備部次長、江本教育委員会事務局次長、久野中山間地域振興課長、富山危機管理課参事、尾室企画推進部次長  
＜国府町総合支所＞森本支所長(司会)、竹氏副支所長、山本市民福祉課長、谷岡産業建設課長、川口地域振興課主幹  
＜事務局＞安本協働推進課長、谷村協働推進課主任、岡田協働推進課主任

## 4 「地域防災計画の見直し」について

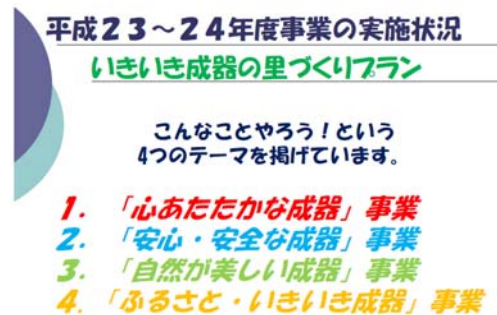
スクリーンに基づき説明(危機管理課参事)

## 5 「協働のまちづくり」についての報告

(まちづくり協議会会長) ※スクリーンに基づき説明

まちづくり・いきいき成器の会は、取り組みを始めてことしで3年目を迎えています。年々、充実した内容が出ていまして、地域も少しずつ元気を取り戻しているのではなかろうかと、自己満足かもしれませんが思っています。いきいき成器の里づくりプランは、ここにテーマを4つ上げていますが、この4つのテーマに基づいて、それぞれの事業を分けて実施しています。

「心あたたかな成器」事業。あいさつ運動ということで、きょう皆さん来られたときに成器地区の入り口に大きな立て看板に気がつかれたと思いますが、最初にまちづくりを立ち上げたときに看板をつくりました。成器のあいさつ運動の大きなテーマの看板を掲げています。2番目はいきいき成器保育園の支援ということで、保育園の園児が少ない、また保護者が少ないという関係もありまして、ボランティアでこの保育園の環境整備等に取り組んでいます。ことしは非常に雪がたくさん降りましたので、保育園の屋根の除雪を3回やりました。市内では考えられないと思いますが、累計でいいますと3mは軽く降っていると思います。最初の雪おろしのときはまだ少なかったのですが、2回目、3回目のときは、屋根に上がると本当に、胸のあたりまで雪があるぐらい積もっていました。つぶれてしまうと困るので3回やったということで、本当に雪おろしの作業は非常に大変でした。それと、これは公民館と一緒に共催しているわけですが、夏まつり、運動会、ふれあいまつり。これは地域のかたがたと一緒になって



公民館、この地域全体が一緒になって実施している事業です。

「安心・安全な成器」事業です。火災報知機の取り付け講習会ということで、まちづくり・いきいき成器の会が火災報知機のあっせんをしましたので、それに伴いまして取り付け講習会を実施しました。ざっと180個あまりの火災報知機を、予約で買っていただきました。防災訓練では、成器には300人分ぐらいの汁物ができる鍋がありますので、それを使っての炊き出し訓練。また、家屋の倒壊訓練は雨のため室内でやっていますが、年によっては外で実施したり、バケツによるバケツリレーの消火訓練もしたりしました。殿ダム健康ウォーキングは、ウォーキング大会ではなくて、まちづくり・いきいき成器の会が定例的に、月に2回実施しているものです。これは、ことしから始めまして、大体10名から20名あまりのメンバーが集まって、毎月定例的にダム周辺を早朝歩いているものです。いきいき成器のお店は、以前、卸団地のかたと一緒になって、この成器地区の年寄りのかたがたの買い物を応援できないだろうかということで取り組んで実施しましたが、この地域は鳥取市から近いということもありまして、なかなかこれを続けることはできなかったということで、結果的に1年限りで終わっています。

「自然が美しい成器」事業。成器のグラウンドのクリーン作戦ということで、運動会の前や納涼祭の前などに1年に2回やっています。グラウンドのクリーン作戦とあわせまして、成器百年桜の保護作戦ということで、130～140年経っている老木を毎年手入れして、春の花見のときには、この下から花見をしています。成器のお花畑は、先ほど言いましたように成器地区の目玉のスローガン看板にしている、そこにコスモスを植えています。今年は非常に雨が降らなかったものですから、なかなか思うように育ちませんでした。来年はコスモスと菜の花、ヒマワリ等をここに植えて、それぞれの季節によって花が見えるように取り組んでいこうと考えています。

「ふるさと・いきいき成器」事業です。鳥取市に集落名の看板をつけていただいたわけですが、これを何とか利用して、集落の名所案内をここに出せないだろうかという市の方にご相談しましたところ、利用されてもいいですよということになりましたので、鳥取市の中では初めてだと思いますが、集落名の下に各集落の名所旧跡等を表示しています。なぜこういうことを思いついたかといいますと、殿ダムの完成に伴っているなかたがたがこれまでこの地域に来られたり、あそこのところ何かないだろうかという案内をすれば、少しでも来られたかたにPRになるのではなかろうかということです。次に、ことしからまちづくり・いきいき成器の会が「因幡万葉湖」ウォーキング大会を引き継いでいます。ことしが初めてでしたが、非常に盛大で事故もなく終わっています。250名あまりの受付がありましたが、当日は大雨だという天気予報が1週間ぐらい前から出ていましたので、キャンセルがたくさん出て、当日は179名の参加者でした。普通のウォーキング大会でしたら、地元のかたがたがたくさんおられると思いますが、このウォ



ーキング大会では地元のかたは2割ぐらいしかいなくて、ほとんどが国府町外のかたがた、遠くは豊岡や琴浦町からも来ておられました。来年もまた盛大に計画をしていますので、市のかたがたも来ていただけたらと思います。また、殿ダムのウォーキングにあわせて成器良いとこマップをつくり、来られたかたがたに配付しました。この地域の宣伝になればということで、10集落それぞれのよいところをマップにして、公民館とか殿ダムの管理所に置いて、来られたかたに持って帰っていただいたり、これをもとに地域を歩いていただいたりと考えています。

取り組みの成果としまして、あいさつ運動や、公民館との共催事業等の取り組みによって、地域の活性化が少しでも図れたらと思うところですが、また、先ほどの殿ダムウォーク、これを来年以降も続けることによりまして、地区の内外からたくさんのかたがたにこの地域に来ていただいて、この地域が少しでも活性化になればなと思っていきますので、これからもこの内容は、これまで以上に取り組んでいきたいと思っています。それと、この地域の特色を生かした取り組みで、いきいき成器太鼓の育成ということです。ここには女太鼓というのがあるわけです。せっかく太鼓があるわけですから、これを何とか有効に使えないだろうかということで、今年のダムの完成式には、この成器地区の子どもたちに出て太鼓を叩いてもらったわけですが、これを育成して、女太鼓と子ども太鼓と一緒に、この地域を太鼓によって盛り上げていったらなということで、いま取り組んでいます。また、いきいき成器保育園の支援ということも、この地域の活性化になるのではなかろうかということで取り組んでいます。これまでこういういろんな事業をした内容によりまして、23年度に日本海新聞ふるさと大賞、また鳥取県の頑張る住民自治活動表彰という知事からの賞と、昨年度この2つの賞をいただくことができました。

今後の課題としましては、いまは役員のかた、またメンバーのかたがたに非常に献身的に協力していただいて取り組んでいるわけですが、やはり過疎化が進んでいる地域ですので、若い人が少しでもこういうまちづくりのいろんな事業に出てきて、一緒になって盛り上げていけばということです。後継者の育成も含めて、この地域が里山のモデルになることを目指してこれからも頑張っていきますので、鳥取市の支援もよろしくお願いします。

## 6 地域の課題についての市長等との意見交換

### 『殿ダム』を活用した地区の活性化策への支援について

殿ダム周辺整備基本計画『殿ダム湖周辺地域ふるさと再生21プラン』の進捗状況等

(1) 平成24年度は既に上半期を経過しているが、現在までの進捗状況と、平成25年度中に完成するかどうか、また今後の見通しについて説明いただきたい。

(2) 殿ダム周辺施設や環境の維持管理にあたっては、地域の団体等により運営できるように配慮いただくと共に、周辺の活用策やイベントの実施等について地域の活性化に繋がるよう更なる支援をいただきたい。

<担当部局の所見等>

#### 【都市整備部】

(1) 殿ダム周辺整備については、鳥取市が事業主体として平成24年度、平成25年度の2ヶ年で整備することとしています。平成24年度は、水路、基盤などの整備、平成2

5年度は、植栽、交流館などの施設整備を行い、完成予定としています。進捗状況としては、現在、事業費ベースで、約3割の進捗となっています。

今後は、周辺整備の早期完成を図るとともに、殿ダムを核として、豊かな自然環境、伝統文化等の地域資源の利活用に取り組みながら、「殿ダム水源地域ビジョン」の着実な推進並びに地域の自立的・持続的な活性化を進めたいと考えています。

(2) 殿ダム周辺整備に係る施設の維持管理は、公募により、指定管理者を選考することとしています。地域に愛されるダムとして、地域の中心を担う組織等が、管理・運営を行なうことが望ましいと考えます。指定管理者の能力を備え、持続力のある安定した組織体制を構築し、申請していただきたいと思えます。

また、ご要望のビジョンの推進に繋がる地域一体の活動等については、本市としても当面、支援を継続したいと考えています。

#### 【企画推進部・国府町総合支所】

成器地区には、歴史・文化はもとより地域の活性化に不可欠な多くの資源があります。

- 上地の棚田、中河原の桜土手や百年桜など営々と護り育まれた自然景観
- 各地に整備されている交流、加工施設やそこから生まれる産物の数々
- 殿ダム因幡万葉湖ウォーキング大会や里山保育などの新たな取り組み
- 新しい国府の食づくり「農村まるごとレシピ研究会」の取り組み 等々

本市では、輝く中山間地域創出・支援モデル事業によるソフト・ハード事業への助成やとっとりふるさと元気塾によるリーダー育成、総合支所や中山間地域振興推進員による住民活動のサポート体制等を整備し、地域住民が主体となって地域を活性化していく活動を強力に支援しています。さらに活力ある「いきいき成器の里づくり」をめざして、これらの積極的な活用を検討してください。

また、国府地域の年間の各種イベントを総合的に紹介する、イベントマップやポスターを作成することを検討しており、殿ダムウォーキング大会など成器地区のイベントも盛り込んで、積極的な情報発信に努めて参ります。

(都市整備部次長)

殿ダム周辺整備は、鳥取市が事業主体として平成24年、25年度の2カ年で実施する予定としています。整備方針としまして、「殿ダム湖周辺地域ふるさと再生21プラン」を、より具体的に活用をするための行動計画として「殿ダム水源地域ビジョン」にまとめています。整備を行う広場は、ダム建設で創出されたダム直下の記念広場、それからダム堤体材料採取地である原石山の中央広場、ダム湖上流端の親水広場と、ダム残土処分地の古神護広葉樹広場の計4カ所としています。なお、神護かやぶき交流館、楠城のふるさと広場は整備を完了しています。平

殿ダム周辺整備 全体図



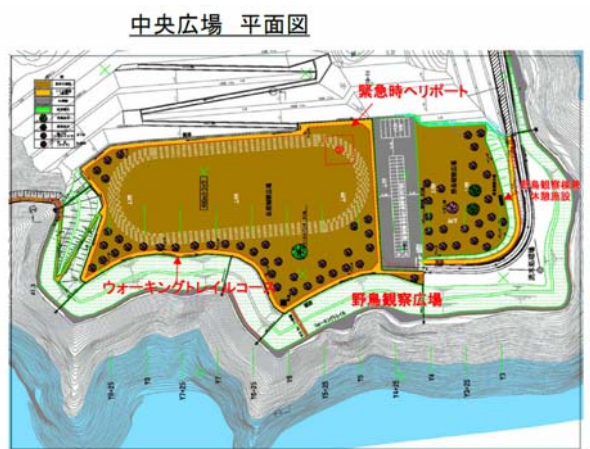
成24年度は水路、基盤などの整備、平成25年におきましては植栽、交流館などの施設整備を行い、平成25年度に完成の予定としています。周辺整備の全体進捗状況としては、事業費ベースで約3割となっています。

ダム堤体直下の記念広場は、県下一の高さを誇るダム堤体の眺望を生かすとともに、桜の名所も目指し、市民に親しまれる空間として整備することとしています。中央部に子どもたちが学習や体験のできる体験学習室や、交流室などの交流活動拠点としての交流館兼管理棟やトイレ、駐車場を計画しています。ダム側にサッカー、グラウンドゴルフなどができる多目的広場を、下流部に遊具を配置した憩いの広場、北側に桜の植栽を計画しています。サッカーは国際試合や全国規模の大会等可能なフィールドの規格である105m×68mを確保しています。グラウンドゴルフの場合、日本グラウンドゴルフ協会認定コースが2面可能です。駐車場は交流拠点広場とダム直下部にあり、普通車約90台、大型12台の駐車が可能です。イベントのときには減勢工横の駐車場を臨時駐車場として、約80台分の使用が可能となります。桜植栽は約135本ですが、ダム周辺でも植栽するように計画をしています。憩いの場では大型コンビネーション遊具、ベンチの設置と植栽を行い、ゆっくり過ごしていただければよいという空間をつくりたいと考えています。



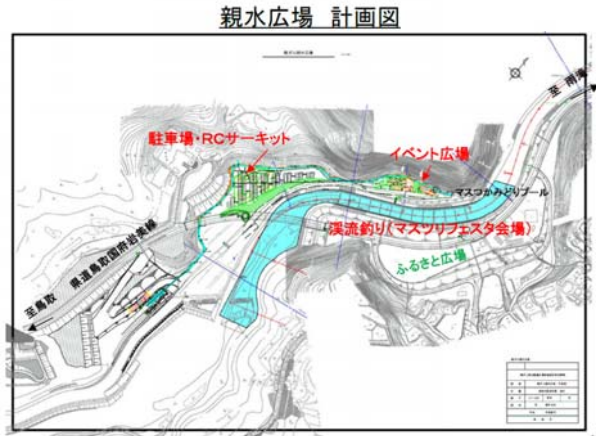
交流館兼管理棟の床面積は364.3㎡、110.2坪となり、これが交流拠点の施設となります。管理棟、事務室、トイレ、草刈り機や芝刈り機を入れる倉庫、小学校・中学校の環境学習やダムの学習や交流等のできる交流体験学習室、展示室兼研究室、外側に屋外イベントスペースを配置しています。現在の進捗整備状況ですが、広場内の水路、トイレ、上下水道、電気の配管等基礎基盤整備を行っています。来年度は植栽、芝生、交流館などの整備を行い、完成予定としています。

ダム築堤材料採取地原石山の計画です。中央広場として、ダム築堤材料採取地は山を開削した場所で県道から離れており、常時ダムの湖面が広がる静観で落ちついた空間であるため、ダム湖畔の散策や野鳥観察等を行う閑静な安らぎの空間として整備することとしています。計画として、駐車場、野鳥観察棟兼休息棟や自然観測広場の整備を行うこととしています。また、ウォーキング、ジョギングコース、途中の休憩場所、それから運動コースの活用もできる空間ともなります。自然観察広場はウォーキングや運動等のできる400mトラックも可能です。また、ヘリの緊急時の離発着場として利用することを考えていまして、国府管内の豊岡病

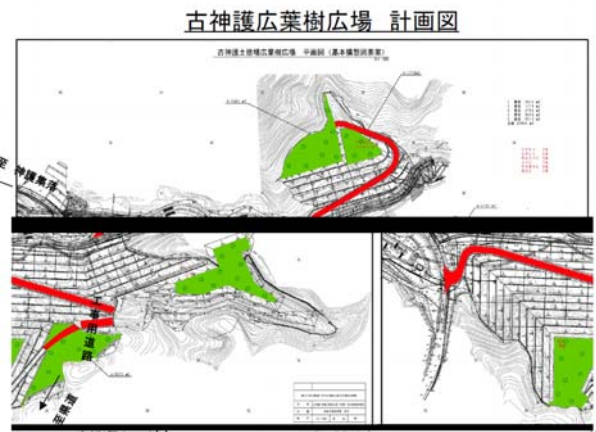


院ドクターヘリのポイント候補として考えています。そのため飛行進入角度内には障害物は設置しないこととしています。なお、電気、水道等がないところですので、トイレは設置しないこととしています。現在の進捗状況ですが、湖面前のウォーキングトレイルの整備を行っているところです。

次に、ダム湖上流端親水広場の計画図です。ここは、試験湛水の満水時のように、100年に1回の確率の豪雨で浸水する場所です。親水広場としては、溪流釣りが楽しめる場や、子どもたちが川に親しむことのできる空間を整備することとしています。国土交通省により、この3月に河川内は整備されました。毎年恒例の国府マストリフェスタは、ことしこの新しい会場で5月27日に、第21回目が盛大に開催されました。また、上流側には常設のマスつかみ取りプールを設置するようにしています。下流部にはサーキット広場、駐車場として活用を考えています。楠城ふるさと広場との連携をいろいろなイベントでできればよいと考えているところです。現在の整備状況ですが、広場内の水路、基盤の整備を行っています。



次に、古神護の土捨て場の広場の計画図です。古神護の土捨て場広場は森林に囲まれた谷間をダム建設残土処分地とした場所ですが、広葉樹の復元を行うこととしています。平場の部分として、約2haに桜、ナラ、クヌギ、もみじ等の植樹をする予定としています。現在の整備状況ですが、植栽を2カ年で整備することとしています。



これらの周辺整備にかかわる施設の維持管理については、公募により指定管理者を選定することとしています。地域に愛されるダムとして、地域の中心を担う組織が管理・運営を行うことが望ましいと考えています。指定管理者の能力を備え、持続力のある安定した組織体制を構築し、申請していただきたいと思っています。

最後になりますが、10月28日に開催されました第6回目の殿ダム「因幡万葉湖」ウォーキング大会の状況です。初めて成器まちづくり協議会の主催で開催となりました。この大会や特産品の開発など、これまで殿ダム周辺地域の活性化のために補助事業として実施されています。今後もこ

**第6回 殿ダム「因幡万葉湖」ウォーキング大会**  
(H24年10月28日 参加者 179人)



の要望のビジョンの推進につながる地域一体の活動等については、本市としても当面、継続的に支援したいと考えていますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

(企画推進部長)

先ほど、いきいき成器の取り組みを聞かせてもらひまして、私どもも非常に元氣をもらったような次第です。他の地域ではなかなか真似のできないような取り組みがなされていまして、非常にうれしく思つたところです。中山間地域等をやっぱり元氣にしていこうと思つたら、資源、物、それから人が大切だと言ひられています。特にこの地域では、先ほど説明がありましたように殿ダム周辺整備等はこれからあるわけですが、それが観光拠点の施設となるわけです。それから、この地域では特産品などもそれぞれ元氣を出していただひいていまして、いろいろな取り組みが進んでいるわけです。自然に目を向けても、やはり上地の棚田とか先ほどの百年桜とか豊かな自然、里山など、市街地やそのほかの地域からでも多く人に来ていただけると思ひますか、人を呼べる素材、宝物が非常に備わっている地域だと我々も考えています。今後も市街地の住民とか、その他の地域の人が多く訪れてくれて交流がどんどん進んでいくような地域にして、そしてまた、来られたかたがやっぱりお金を落としていただく取り組みも必要だと思ひます。やっぱりある程度地域に潤ひがないと活性化は長続きしないと思ひていますので、儲けるような仕組みも必要になってくるのではないかと思ひています。幸ひ山菜とか農産物、加工品ですね、手づくりコンニャクとかイチジクジャムとかワサビ漬けとか、いろいろこの地域にはいまでもあるわけですから、こういうものの加工グループや集落の売り上げが伸びて、農家のかたがたの所得になっていくことが非常に望ましいと思ひていまして、それについては市としても何とか支援を行つていきたいと考えています。

それから、いきいき成器保育園の取り組みなどありました。やはり従来から元氣な取り組みがかなりなされていまして、先ほど日本海新聞のふるさと大賞の受賞とか、県の頑張る住民自治活動表彰をいただひておられますことが大変うれしいわけです。佐治にしても河原の西郷地区にしても元氣ですが、元氣な地域が何で元氣かという、やっぱり地域がまとまっているということが一番の要因だと思ひます。各集落で一生懸命力を出してもなかなか限界はあります。ところがそれらが一緒になることによって相当な力が出てくると、我々は思ひています。やはり各集落が連携されて成器地区が一丸となって活性化していくように、本庁と総合支所とで一生懸命支援していきたいと考えています。

先日、10月31日ですか、竹内市長が塾長を務めます、とっとりふるさと元氣塾の出前養成講座がこの公民館で開かれまして、27名の塾生が参加されたということです。こういう取り組みも通じまして引き続き地域の皆さんの多くの知恵とか、昔からの技とか、それから気持ちを結集していただき、いま以上にみんなで考えて行動すると、さらに元氣ないきいき成器の里づくりを目指していただきたいと考えています。そのために市の方も総合支所も精いっぱい支援させていただきますので、市と地域と一緒に元氣な成器の里をつくっていききたいと思ひています。どうか今後ともよろしくお願ひいたします。

(地元意見)

記念広場のところに交流館というのができるということですね。その交流館の中に何人

ぐらい、多分小学生や中学生、学生さんが主になるかとも思いますが、何人ぐらいの収容になるのですか。

(都市整備部次長)

交流館の体験学習室ですね、これについては、115㎡ということで1学級分の36名を予定しています。それで、展示兼研究室の方が34.8㎡、このような計画をしています。

### 国府東小学校への通学路線バスの乗り入れについて

国府東小学校に通う成器地区の児童は、平成14年の開校以来、通学に路線バスを利用している。開校前に、スクールバスの代替案として路線バスを校内に乗り入れるように要望した経過もあったが、実現しないまま現在に至っている。

通学状況を見ると、登校時には問題はないが、下校時には県道を横断してバス停に向かうまでの経路が大きく迂回することや、道幅の狭い部分がある等の安全確保上の課題が見られる。

については、児童の安全確保のため、下校時だけでも路線バスの校内への乗り入れができるように要望するものである。

### <担当部局の所見等>

#### 【都市整備部】

バス運行事業者(日ノ丸自動車(株))にお伝えしたところ、次のとおり回答がありました。

『現地確認をしたところ、小学校出入口が狭く冬場の積雪がある場合は運行が難しいと考えます。また、校内回し場の除雪も必要となります。さらに、大型バスで小学校出口を右折することは、右側がカーブとなっているため、見通しが悪く危険であると考えます。

以上のことから、路線バスの乗り入れは困難と考えます』

路線バスの乗り入れ以外の対策として、押しボタン式信号機付近へのバス停車帯設置について県に要望してまいります。なお、県の対応状況によっては、市としてバス停車帯設置について検討したいと考えます。

いずれにしても、地元用地等のご協力をいただくことが前提となります。

(都市整備部次長)

バス運行業者の日ノ丸自動車にお伝えしたところ、次のような回答がありました。日ノ丸自動車の回答ですが、「現地を確認したところ、小学校出入口が狭く、冬場の積雪がある場合は運行が難しいと考えています。また、校内回し場の除雪も必要となります。さらに、大型バスで小学校出口を右折することは、右側カーブとなっていますので見通しが悪く危険であると、以上





のことから路線バスの乗り入れは困難と考えます」という回答をいただいています。

その中で、路線バスの乗り入れ以外の対象として、押しボタン式の信号機付近へのバス停車帯設置について、押しボタン横の部分について、県の方に路肩の拡幅をしてくれという要望をしたいと思っています。それで県の対応状況によりましては、本市としてバスの停車帯の設置について検討したいと考えています。いずれにしても地元の用地等のご協力をいただかないとできませんので、何とぞよろしくお願ひしたいと思ひます。

(地区会長)

このテーマは成器地区の自治会長会に出したものです。スライドに緑の線がずっと引いてありますが、子どもたちが帰りには、この狭い3mか4mぐらいの道を大回りしてバス停に行っているわけです。かえってここの方が本当に危ないという声もありまして、あえてこれを出しました。先ほどの説明の中で押しボタン式信号機のところにバスの待避場を検討されるということで、非常にいいことだなと思っています。何とか地権者のかたと話を早くつけていただいて、事故のないうちに何とかできないものかなと思っていますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

(竹内市長)

下りというか、上の方にあがる時には、いまは谷村バス停で乗り降りしてもらっているわけですが、学校の校舎の正門に近い押しボタン式信号機の近くに、鳥取駅方面の谷村バス停のような構造のものをつくるというのが、これがどうも解決策としては一番いいのではないかと。よく見てみると、あそこは三角形の田んぼが1枚あるのですね。ここについてはさつき保育園などもあるし、何とか道路の拡幅用地に活用して、バス停と、ちょっとたまり場といいますか、空間をとということを図上で考えているのです。もともとさつき保育園の方に入っていくところは少し細い道で、歩道の整備をという話もあったところで、用地の買収も含めて出てきますが、それはいい考えかなと思っています。この点についてなかなかいい考えではないかというご賛同をいただきましたが、もともと県道なので県との関係、それから地元の田んぼの持ち主の地権者との関係、いろいろまだ調整することがあります。ここにいらっしゃるかたがその地権者のかたをよくご存じかどうかわかりませんが、実現可能性についてはまだはっきりしたことを見きわめていない段階ではありますが、この方向で、まず市としても県及び地権者のかたに働きかけてご協力をいただく方向で、何か関連してご意見なり参考の情報があればお話をいただきたいと思ひ、きょうはやってきました。どうですかね、会長さんやほかのご出席のかたで、何か関連してご意見や参考となる情報があれば教えていただけますかね。

(地区会長)

この地権者のかたは知っています。

(竹内市長)

知っている。はい。それだけでも心強いです。

(地元意見)

いま言っておられました東小学校の通学路のことは、できたらそれは大変ありがたいことです。市長さんが言われるように地権者との話があればということですが、会長が知っているということのようですので、ぜひお願いしたいと思います。その図にありますように、朝出る登校のときバス停はすぐ学校の近くで、降りたらすぐ学校に入りますが、市長さんが言われたように、下校時はさつき保育園の方側の細い道をぐるっと回るわけです。県道沿いに歩道があればそこを歩いて谷村バス停から上地、雨滝方面に行けるのですが、どうしても大回りになりますので、できたらお願いしたいです。

## 7 市政の課題についての意見交換（フリートーク）

(地元意見)

以前に、耐震診断事業費というもので620万円か幾らかの予算がついていたと思います。この成器地区では旧成器小学校、それからいきいき成器の保育園、それからこの公民館の3施設が平成24年度に耐震の検査を実施すると聞いていますが、もう11月22日で、ちょっとすると12月になると。平成24年度といってももう4カ月しかないのですが、本当に平成24年度の間に3施設の耐震の検査をしていただけるものか。それと、その結果について成器地区の方に診断結果等を連絡してもらうとか、結果がダメだった場合の利用の仕方というか、その辺をちょっとお聞きしたいと思います。

(総務部長)

地域の重要な拠点ということで、旧の小学校、また、いきいき成器保育園、それからこの公民館という3施設についての耐震の診断状況のご質問がありました。市の施設で、耐震診断しなければいけない施設が145ぐらいと、たくさんあります。その中でこの地区の施設についてですが、公民館は現在診断をしている最中で、7月18日から来年1月31日までの間が契約をしている期間です。また、いきいき成器保育園は来月、12月4日には入札をして、2月末までに業者に診断をもらうというスケジュールになっています。最終的には県の判定委員会にその診断結果を送り出しまして、その判定委員会の方からこのぐらいの強度があるとか、現状はこのぐらいだとかというお墨つきをもらうと。ある程度まとめて県下の施設を判定されるようでして、年に数回ということで、毎月判定会が開かれるというものでもないようです。23年度、前年度の場合は3月に最終的な判定委員会の結果が出たりしていますので、いま現在、私どもとしては、年が明けて3月ぐらいに最終的な判定結果が出るのではないかなと、この公民館といきいき保育園の2施設についてはそういったスケジュールで考えています。

それから、旧の成器小学校については耐震診断ということは改めては行わずに、利用に合わせた形態での一部改修とか耐震補強、こういったことをセットでできないかなという検討をしないといけないと考えています。旧の成器小学校については改修と耐震をセットでできないか検討をしているという状況です。

先ほどの2つの施設については3月になると思いますが、最終的な判定結果が出ました暁に、耐震補強をするのか、それとも改築するのか新築するのか、具体的に判断していきます。状況によって一部補強で済む場合とか、これはもたないぞとかいろんな診断結果が

出るものですから、私どもとしてもその結果を踏まえていかないと最終的な方向性を決めかねる部分もあります。ご心配だとは思いますが、いつになるかというご不満もあるかも知れませんが、そういったスケジュールで動いています。3月末の最終的な判断になるかと思いますが、それを踏まえて最終的に決めていきたいと思っておりますし、その折にはまたご相談もさせていただきながら向かっていきたいと思っておりますので、もしばらくお待ちいただければと思います。現状としてはそういう状況ですので、ご理解ください。

(地元意見)

小学校と体育館もひっくるめて耐震はしないということですか。調査は行わないようなことを言われましたが、耐震をする必要がないということなのか、ちょっとよくわからないのです。何かがあったときには体育館に住民の人が避難したりする退避場所にもなるはずですし、成器地区というか旧鳥取市、それから県外の人も結構見学に上がってきておられますので、耐震の方のことをもう一度きちっとお願いします。

(総務部長)

旧成器小学校については、耐震診断は、いきいき成器とか公民館がやっているような診断はするまでもなく、と言ったら言い方が悪くなりますが、古い建物ですし、改めて耐震診断ということはする予定ではありません。それよりも現在の利用ですとか今後の利用、こういったものをまたご相談させていただきながら、一部の改修と、それに合わせた耐震補強をセットでできないかと考えています。学校全体というよりも、いま使っておられるところ、これから使わなければいけないところ、そういったところの一部改修とそれに伴う耐震補強をセットでやった方がいいのではないかと考えているということです。改めての耐震診断はしなくても、それよりもそのお金も含めて一部改修と耐震補強、こういったものをセットでできないかということ、現在考えつつあるということです。

(支所長)

耐震診断は、昭和56年以前の建物についていたします。体育館はそれ以降に建てたものですので診断はしません。大丈夫です。対応しているということです。それと、小学校本体の方では、いま給食室の改修を検討してまして、改修とあわせて耐震補強なりをしたいなど。1年とか2年の教室も使っていますので、そのあたりもあわせて対応できないかなという考えでいます。

(竹内市長)

旧成器小学校の利用については調整をいろいろ図られているところで、大体内容はまとまったように伺っています。アトリエ小学校とか、あまり具体的には聞いていませんが、地域の遺産となるような農機具等の保管や展示などをするスペースとか、そういうことで、いまの成器小学校の本体部分、2階建ての木造の部分ですが、これの活用を図られるということは地域の中で話し合いがされてきました。大体方向づけができてきているということです。そういう利用に伴って内装などをする事になっていくと思っております。木造の建物の補強というのは、筋交いを入れるとか、金具を打ち込んで揺れに対して強くすると

ということがあります。改修するのとあわせて、そういった手を打っていくということを基本として対処してはどうかということで、検討をしています。今後、まずは利用の内容に応じて、どの程度どこを使われて、どこを補強したらいいか、これはもちろん専門家の意見を聞いて、地域の関係者とも相談して進めていくと。ああいう木造の建物の補強については、建築屋さんはどういうところにしたら強くなるというのはわかっていますので、建物の耐震診断そのものというよりは、必要な場所を改修とあわせてやっていこうと。もう診断云々ではなくて、基本的にそのような考え方でいます。大事な地域の宝物でもあるわけですし、いろんな利用を計画されていますので、どうぞ有効な利用を図っていただくとともに、いま言ったようなことの計画を策定して実施していきたいと考えていると、前向きにとらえていただきたいと思います。

(地元意見)

山崎からダムに上がる道路がありますが、道路に石が落ちています。僕も歩いているのですが、大きな石から小さい石が落ちております。山崎城址の方に行く間のところに、大きな石が。処理はされていますし、特に人通りも少ないのですが、何回か通る中で大きな石が落ちていたという状況があります。危ないような感じがしますので、何とかならないかお尋ねしたい。

(都市整備部次長)

楠城山崎線という市道です。国土交通省の殿ダム事業で建設されたダムの左側、護岸道路です。先日、実を言うと調査に上がりまして現状の点検をしましてまいりましたが、現在のところ崩落等が発生するような状況は見受けられませんでした。それで対策として、国土交通省が落石箇所という看板を設置するように、注意喚起を促す意味で看板を設置するようになっています。これは約束してあります。その中で市道の安全確保に努めてまいりますが、地元のかたでお気づきの点がありましたら、支所または道路課の方にご連絡いただきたいと思います。大型土のうの設置等によりまして、安全対策を考えていきたいと思っています。

(地元意見)

ただ、大きな石がいつ落ちてくるかわからない状態ですよね。看板等はいいいし、歩いているとか車が通るのも少ないのですが、直接当たるということがないとは言えないと思います。そういう現実を二、三回見えています。道の真ん中とかへりの方に落ちていまして、いつこそ災害が起きるかわからない中にご質問させていただきました。看板ではとても防災対策にならないと思いますので、その辺のことも極力お願いしたいと思っています。

(都市整備部次長)

先ほど回答させていただきましたとおり、最近点検して、いまの段階ではちょっと危険度が低いなという判断をしています。それで、先ほど申しましたように、小さい落石については大型土のうを積むという処置をいたします。また、石が割れてきて落石が多くなると危険ですので、今後については、そういう落石の実態がつかめましたら対策を考えたい

と思います。当面は応急処置の方で対策をさせていただきますので、ご理解をよろしくお願ひします。

(支所長)

いまの件については、支所の方も定期的に、月に1回程度のようなのですがパトロールしていますので、点検をしながら必要な措置をとるべきであるところでは対応したいと思っています。

(地元意見)

山崎城址からカーブを上がったところは未整地になっていますが、あれは今後どういうふうになるのかな。

(産業建設課長)

ここは国交省の殿ダムの敷地内でありまして、残土等が一部置かれていましたが、これがこの春、撤去されました。国交省の方からは、将来的にはきちっと芝生等を張って整備をすると伺っているところです。

(地元意見)

これから雪が降りますが、ダム湖とかそのあたりの道路を除雪していただけるのかどうか。

(都市整備部次長)

除雪については、現在、除雪の路線でないということで、また、支所等を交えまして持ち帰りということで検討させていただけないでしょうか。

(竹内市長)

ちょうど雪が心配になる季節になってきたわけですが、新しい道路でもつけかえられて、バスなども含めて普通に通行する路線は除雪対象にしているはずだと思っています。さっきのダムの道路の除雪というのがどのあたりなのかについて、また担当課の産業建設課の方に話をさせていただいて、情報ははっきり把握した上で、また本庁支所で調整します。新しくできた重要な路線で、なおかつ除雪ができない状況に置かれているところがあれば、それはまた検討して、対象にするなら対象にしてお知らせするということになると思います。ダムの堤体の上とかそういうところは恐らく除雪はしないと思いますが、地域のかたの生活に必要な道路で幹線的なものは除雪しなければいけませんし、新たにできた道路についての再チェックは、こちらでいまのご意見をもとにさせていただいたりしますので、よろしくお願ひします。

<補足：道路課・産業建設課>

要望のダム湖の道路は、市道楠城山崎線で殿ダムの左岸道路として殿ダム事業により建設された市道で、本年4月に供用開始した路線です。本路線は鳥取市除雪基本方針に定め

る除雪対象とする路線の基準（バス路線・主要幹線道路等）に該当しないため、本年度の除雪計画において除雪対象外としています。

今回、除雪の要望がありました。本路線は雪崩防止柵等が設置されていないため、冬期間の安全な通行を確保することが保証出来ないと考えますので、除雪計画の通り除雪は行わないことと致します。なお、成器地区においては殿ダム事業の完成に伴い、本路線の他にも市道へ移管された道路が多数あり、これらの道路の除雪計画について成器地区山崎会長さんにご相談し、本年度の除雪路線の決定を行っています。

（地元意見）

除雪の件が出ましたので、路線バスと路線の除雪についてお願いがあります。というのは、昔は、この公民館の前が県道31号で、現在は上地に行く154号になっていると思います。それから体育館の上を通っているのがいまの31号で、いずれの県道も県が除雪するからきれいですが、路線バスが通る、山崎橋から31号に上がる市道は、今回の大雪で路線バスは立ち往生する、一般の車両も入って立ち往生する、こういうことが起きて大分困りました。こういうことがあって、バスが中河原に入らずにバイパスして31号を通られたりしたら困るのです。わずか800mぐらいの距離ではないかと思われませんが、市道をしっかりかいていただかないと、住民としてはものすごく不安を感じています。我々は奥の方から154号で出てくるのです。県道だからいいのですよ。ぱっと横を向いて市道に入ったら、こんなところをバスが通るのかという感じがしますし、最近のバスはノンステップバスになって多分車高が低いと思うのです。だからしっかりと除雪していただかないと。県の方は下からずっと上がってきたりするのですが、ここは業者に出されていて、ここまで来て除雪するというのは大変だと思いますが、路線バスを抱えていますので、そのあたりをしっかりと検討していただきたい。業者の選定の場合にも、このところはきちりとやっていただきたいというのが私の意見です。

（都市整備部次長）

いまのご質問は、ことしの2月8日の話だと思います。2月8日ですが、これが全市内で早朝から断続的に雪が降ってしまっていて、雪をかいてもまたすぐ積もるような状況でした。これを受けましてバスの運行に支障が生じたという連絡をいただきまして、3時半ごろからかいたような経過があります。

鳥取市の方針として、バス路線とか通学路は重点的にかいていますので、また支所と連携をとりながら、住民のかたの足に支障がないような格好でことしも除雪をやりたいと思います。

（地元意見）

わかりましたが、県道と比べて市が除雪した場合には、路肩がものすごく狭くなるのですね。ことしは特に多くて、県道の方は排土板だけではもう押し切らないから、ロータリー車も入れていただいて、そういうことで広げてもらったのですが、市道の場合は狭いのですよね。バスと乗用車が離合する場合にちょっと問題にもなりますので、かくのは当然ですが、路肩の部分もなるべく、道路が広く使えるような除雪も検討をお願いしたいと思

います。

(産業建設課長)

ただいまの市道中河原殿線という路線ですが、この除雪については、昨年まで業者委託をしていました。今年度も業者委託をするのですが、ふるさと農業公社に委託をする予定にしています。市が保有しておりますドーザーを貸与しています。大型の除雪機で除雪を計画していますので、昨年より状態は良くなるかなと考えています。

(地元意見)

定期健診がこの場所で行われるのですが、歳をとってきて一番困っているのが、レントゲン車でバリウムを飲んで、アクロバットみたいな格好で写真を撮ることです。これが最近とっても辛くて、僕はことし、よう受けていません。口とか鼻から胃カメラを入れて簡単に映せるものができているのに、バリウムを飲んでゲップを出さないようにねと言われて台に乗ってぐるぐるやられるのは、本当に下手して手を離したら、けがをするような感じがします。僕の腕が弱いからそうなのかも知れませんが、僕よりも歳をいつている女の人などは特にそうだと思います。管轄はわかりませんが、定期健診といういいことをしてもらっているのだから、バリウムを飲んでレントゲン撮影するのを、胃カメラに切りかえていただくことはできないものかというお願いです。

(支所長)

保健事業団が上がってきているのだらうと思いますが、そのご意見は伝えたいと思います。あれは医師が必要なので、その辺が対応できるのかできないのかわかりませんし、移動検診車でカメラというのは聞いたことがないので、本当にできるものなのか確認はしたいと思います。胃カメラで検診できるお医者さんに行っていただくのがいいのかなとは思ったりしますが、聞いてみます。

(竹内市長)

別途、胃カメラの検査を受けていただくようなことを考えていただく必要があるかもしれませんが、いろんな方法があると思いますので。

(地元意見)

いままでは口からだけでしたが、鼻からでもできるようなものもできて、進歩しているのにね。バリウムを飲むのはいいが、出るまでがまた一日大変で、仕事にも行かなければいけないから。撮ってもらうのも本当に怖いですよ。これは僕だけの心配だとは思いますが、できたら胃カメラでするような、胃の検診をお願いできたらと思います。

<補足：市民福祉課>

- ① 集団健診での胃がん検診については、X線(バリウム)検査しか厚生労働省は認めていません。
- ② そのため、胃内視鏡検査ができる検診車はありません。

穿孔・出血等の処置が必要な場合もありますので、受けられるかたの安全を考慮すると、胃内視鏡検査を希望される場合、病院等での検診をお勧めします。

(地区会長)

最後に、地域のことでなく鳥取市庁舎のことについて、市長が来ておられるいい機会です。ぜひお聞きしたいと思います。

私は、鳥取市庁舎は駅周辺に来るということで、間違いなくそれに決まるのではなかろうかと期待していたわけですが、住民投票はああいう結果になりました。いま、当初の20億円あまりから倍近くの金額になっているということを知りわけですが、住民投票はあくまでも20億円あまりで現地で耐震改修ということでした。それでできるのであればやむを得ないかと、自分ながら納得はしたわけですが。住民投票で敗れたのでどうしようもないわけですが、いまの40億円ということになると、住民投票の結果というのは、私に言わせると全く別物です。あくまでも住民投票にかけたのは20億円で、40億円ということになると、もう一度住民投票をするか、市議会の議員さんたち側で決めて住民投票かけたわけですから、市議会が解散して、新しいメンバーでもう一回市議会側に検討していただくのか。

いずれにしても私個人からすると、鳥取市の将来を考えるとやはり駅前周辺しかないと思うわけですが、いまの40億円ということを知り、市議会あるいは反対のかたがたがあれはおかしいとかいまだに言うておられます。市長さんが答えられるのは苦しいとは思いますが、いまの段階でよろしいですから、どういう方向で思っておられるのかお聞きしたいと思います。

(竹内市長)

たしかにご指摘のように、5月20日の住民投票は、議会が2つの案を示してどちらか住民の皆さん選んでくださいというものでした。多数のかたが選んだ案は、耐震改修及び一部増築という言葉で表現されていて、事業費は20億8,000万円という計画が、概略ですが示されていました。それが多数を占めたということで、その後その案についての検討が進んだわけですが。概略の内容でしたから、専門家に、金額を含めて具体化する上でいろいろな条件を検討してもらいましたが、その計画の内容どおりには実現できないということがはっきりしたというのがいまの段階です。そして、大体似たような形のものをつくるには建設費で33億円、関連して土を掘ったり文化財の調査をしたり、そのほか関連の費用を含めてほしい43億円かかるということになりました。となると、先ほど言われたように倍以上ということになって、これはもとの耐震補強の案とは費用の面でも内容の面でも、工期なども含めても大分違ってくるということになってきました。

議会も大変な事態を迎えたという認識は持っていて、検討を続けているところです。ただ、5月20日の住民投票からいままでに既に6カ月たって、そして年末まで迎えると7カ月という非常に長い時間を経ているような状況なので、私としては早く議会としての考え方、判断を示してもらわないと、具体化に向けての執行部としての取り組みを進めることができないということを知り、ひとつ言っています。また、新築移転の案、これは駅の南のところの旧市立病院の跡地ですが、それと現地で耐震補強、そういう2つの案を示



して行った住民投票そのものをどう考えていくのかという議論も既に起こっているわけです。

市庁舎の整備というのは、鳥取市にとっては避けて通れない重要な問題です。東日本大震災を経験した我々としても、市政の重要課題でもご説明しましたが、やはりしっかりした災害対応ができるような機能を備えた庁舎が要りますし、いまの庁舎は耐震性が極めて低いレベルにあるということを考えると、ゆっくり考えてやっていけばいいという問題ではなく、できるだけ速やかに耐震化という課題を解決しなければならないと思っています。したがって、議会がどうこの問題を考えるか、議会自身の責任論といったことも議会の中でも出てきていますので、そういったことも含めて議会での年内の議論の取りまとめを一方では見きわめながら、やはり庁舎の整備そのものをどう進めていくのかというのを、より大きな課題として執行部としては方向づけをしなければならない状況にあります。先ほど、将来を見据えてというお話がありましたが、庁舎というのは10年、20年使ってまた建て替えばいいというものではないのです。どういう方法をとるにしても、次の世代に引き継いでいくという性格なものですので、負の資産を残すのではなくて、良好な庁舎というものをやっぱりここでしっかり考える。値段だけで安ければいいというのではなくて、どういうものをいまつくっていくのか、庁舎整備のあるべき姿を、やっぱりもう一度考えてみる必要があるというのが私の認識です。そういう意味で、こういう事態を迎えて、改めて立ち止まって考えてみななければいけないと思っています。

市民の皆さんには、庁舎の問題もう決まってしまったとか、方向はこれがいいという議論ではなくて、20億8,000万円でできないということもわかったわけですから、どうするのが一番いいのか改めて考えることをお願いしたいなと思います。

検証の結果というのが市議会だよりの別冊、臨時号として12月の市報の真ん中あたりに挟み込みで入っています。いま申し上げた33億円とか43億円、これくらいは少なくともかかりますよという試算になっています。そして、その現地での耐震改修の案については、そのほかにも駐車場が工事の間つぶれて業務の遂行に非常に支障があるとか、そういったところは明示的にははっきりは書いてないのですが、関連していろんな問題もあるということも議会の中でも言われていて、これからどうしていくのか、ちょっと先がはっきりしない状況になっています。執行部としては行政が仕事をする上で必要な施設ですし、市民の皆さんが多くいろんな形で利用される施設です。そして鳥取市にとっては、あれが市庁舎かと言われることのある施設ですので、どうあるべきかを考えていく必要があろうかと思っています。厳しい経済情勢もちろんありますし、ぜいたくなものをつくるという考え方は一切ありませんが、負の遺産のようなものを次の世代に引き継ぐのではなくて、いまの時代にできる最善のものをつくって、次の世代に引き継いでいくことが大事だと私は思っていますので、この点についてまたいろんな機会にお話できたらと思います。

## 8 市長あいさつ

きょうの地域づくり懇談会ですが、大変多くの皆さんにいろんな思いを話していただき、ありがとうございました。

バス停の件なども、学校の中に入るよりも、我々も思い切った解決策として、ちゃんとしたバスの停車帯ができたら一番いいではないかというところに、ちょっと目を向けて

います。そういったことができれば子どもたちにとっても、交通上も非常にいいのではないかと思います。

そして、殿ダムの周辺整備はまさに成器地区にとって大きな課題だし、これをどう生かすかでこれからの成器も随分変わってくると思います。施設整備をされます、こういうふうにできますということはお示ししたとおりでありますが、それをどう生かすかは皆さんの力です。さっきのアトリエ小学校、成器小学校の校舎の話などもそうなのですが、我々行政との連携の中で、殿ダムや雨滝に行く人たちに、ぜひこの地域に立ち寄っていただくようなことも重要だと思います。記念広場というのがあるでしょう、殿ダムの下流部の。こういう広場もどういうふうを活用したら一番いいのか。さっき聞いていますとグラウンドゴルフも2面とれるという話でしたし、サッカー場としても使える広さだということです。指定管理者を募集することになるので、これをどう使うか、そして維持管理のためにだれが手を上げるかということについて、地元で準備をしていただいているのがいいのではないかと。NPOとかいろんな形があると思いますが、これを管理するにはかなりの人数が必要なので、組織化が必要かなと思います。

それから、これは桜ばかり植えていますよね。広場を野鳥の観察広場とかウォーキングトレイルコース、すなわち山道というか、小道というか、そういうことで考えていますが、広葉樹系のものを植えるのだらうと思うのです。どういうふうにも有効に使えるのか、もう少し具体的なイメージがわいてこないのですが、特産品といいますか、山ですからクリとかトチとかいろんなものがあると思いますし、この成器地区では吉野のソバなども有名ですが、何か特産品づくりを手がける手はないのかというのが、実は私の言いたいことです。これは国府町全体でも言えますが、特にいろんなお客さんが殿ダム周辺に上がってこられるということで、何か特色のあるものを栽培して特産品にできないかと。さっき名前を上げたソバとかクリとかトチの実とかは、少しずつあると思うのですが、特産品にできるぐらいいいものをつくるか、そのほかに果樹以外でもいいのですが、何かいいものをつかって、新たな特産品として現金収入になるようなものができないだろうか。毎年多くの人やってくる、例えば殿ダムウォークのようなときにでも喜んで買って帰るようなものを地域で用意できたら非常にいいのではないかと考えています。成器地区に限らず、神護の方も、前は水車米というのをかなり売り出すようなお話も聞いていましたが、これは私の印象で、私の思いの一端ですが、ぜひ何か特色のある産物を考えていかれたらどうかと常に考えています。これは総合支所などが地域のかたとお話しして知恵を出して、いろいろなことを考えていただいたらと思います。

あとは交流ということがキーワードだと思います。交流施設とか広場ができて、使う人がいないと生きてきません。成器地区には上地の交流館もありますし、さっきの記念広場の方にも新たに交流館ができます。交流館という名前はありますが、実際に人が来なくては交流館になりませんので、イベントもありますが、人が喜んで来るような仕掛けを何か考えていくことが重要だと思います。ちょうどいきいき成器保育園のように自分たちで運営して、一定の成果とそれから充実感もあるような状況があらうかと思っていますし、新たに里山保育という新しい分野にも進出をしようとしていますが、今後そういう課題について目を向けていただいて、地域の皆さんが、こういった施設の整備をどう自分たちのものにするのかという観点で、ぜひこのところをお考えいただくとともに、支所とよ

く相談していただいて具体化に努めていただきたいと思います。

きょうは市の職員もたくさん見えていますから、よく聞いて、成器の地域の住民としても考えていただきたいなと思います。これから寒くなってまいります。さっき雪の話も出ていましたが、地域の皆さんにはむしろ温かい話題でいい年の瀬を迎えていただき、また新しい新年が輝かしい1年になるようなことを、お互い力を合わせて実現していきたいと思います。今後ともどうぞよろしく願いいたします。きょうはありがとうございました。